

市史だより

がちまやあ

Ga č i - m a j a a

第27号・2012年12月3日(月)発行

年2回(7・12月発行)

編集 宜野湾市教育委員会 文化課 市史編集係

〒901-2224

沖縄県宜野湾市真志喜1-25-1(宜野湾市立博物館内)

問い合わせ 情報提供先

☎ * (* ☎ * ☎

☎ 098)870-9317

Fax 098)870-9316

E-Mail: kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

喜友名は、宜野湾市の北部、伊佐三差路から普天間へ向かう県道81号線の右手に位置し、キャンプ瑞慶覧と普天間飛行場にはさまれた集落で、方言ではチュンナーと発音されます。

現在の喜友名はほとんどが住宅地で、中央部には緑の多かった戦前

からの旧集落屋敷や道路の区

画が残っています。集落を取り囲む数としては、沖縄県内で最も多いとされる石獅子群(市指定有形民俗文化財)があり、集落の簡易水道の水源とされるチュンナーガーは国指定有形文化財として保護されています。

戦前には、喜友名グスクがあり、グスク内にはグスクヌガントーグラーと呼ばれるほこら祠やグスクヌカー、そして香炉のみを据えたクラと称される所など、5、6カ所の拜所があったと伝わっています。これらの拜所は喜友名の聖地としてのみならず、近隣の村落からもそんすう尊崇されていました。しかし、残念ながら道路拡張工事や米軍の住宅建設により破壊され、現



ヒージャーゲーフ

メーバルウフシー(前原の大岩)へのケーシ(反し)としておかれたシーサーの形をした石像

在ではその面影すらとどめていません。

ウシナー(闘牛場)があった喜友名の人の娯楽は闘牛でした。闘牛の飼育が盛んで、毎月1回、訓練のための闘牛を行っていました。また、闘牛のある日は、浦添村(現浦添市)伊祖あたりの天ぷら屋が来ることも楽しみだったようです。



沖縄戦当時は、集落内の民家に150人の日本軍が駐屯し、住民は日本軍の炊き出し、水汲みなどの労働を強いられました。出征した男性に代わり女性が水を汲むために、チュンナーガーまで何度も往復させられました。



戦後はしばらくの間、収容所にいましたが、1947(昭和22)年10月に元の集落地への居住が許可されると、米軍のチリ捨て場から古い材料やトタンなどを拾い集め、仮小屋を建てました。翌年、7月までにはほとんどが移動を終え、10月には移動祝賀会が催されました。しかし、今もなお喜友名の集落は北側をキャンプ瑞慶覧に、南側を普天間飛行場に接收されたままです。

ぎのわんムラ紀行 ～ 喜友名編 ～

「ぎのわんムラ紀行」の第5回目は、喜友名です。戦前は集落北側に喜友名グスクがあり、眼下には沖縄三大美田と称される北谷ターブックワが広がっていました。北側の低地は湧水に恵まれ稲作が盛んで、集落内には精米所もありました。しかし、集落のある高台地域は水が得にくく、溜池や水タンクを造り、水を確保する工夫をしていました。



現在の行政区界



道 ヤクバミチ(役場道)

宜野湾村役場へと続く道です。この道には、大山駅へサトウキビを運ぶためのトロッコのレールが敷かれ、宜野湾・神山方面のサトウキビが運ばれてきました。



右側の道がヤクバミチ

泉 イキガガーと **泉** イナグガー

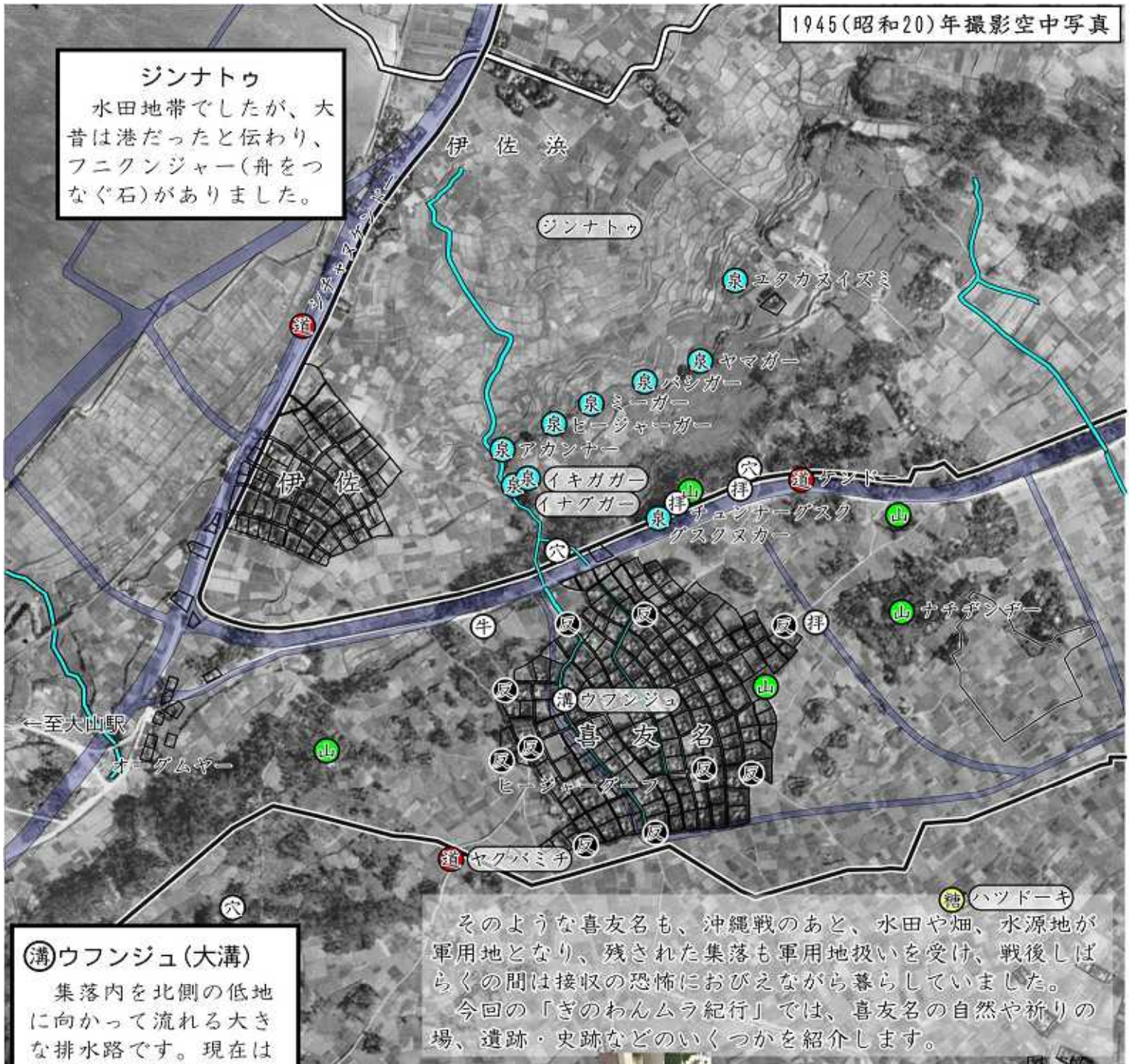
数ある喜友名の泉の中で、最も利用された泉です。喜友名のウブガー(産泉)で、祈りの場ともなりました。現在もキャンプ瑞慶覧内に残り、その立派な石積みは、国指定重要文化財[建造物]に指定されています。



- 市町村境界
- 基地境界
- 戦前の水路
- 戦前の家屋
- 遺跡の範囲

ジンナトゥ

水田地帯でしたが、大昔は港だったと伝わり、フニクンジャー(舟をつなぐ石)がありました。



溝ウフンジュ(大溝)

集落内を北側の低地に向かって流れる大きな排水路です。現在は蓋がされ、道路となっています。



ウフンジュ跡の道路

石獅子群

集落の外から侵入する厄を払うために設置された、7体の石製獅子像です。うち6体(写真右側中央の獅子像除く)は市指定有形民俗文化財に指定され、今でも集落を見守っています。



そのような喜友名も、沖縄戦のあと、水田や畑、水源地が軍用地となり、残された集落も軍用地扱いを受け、戦後しばらくの間は接收の恐怖におびえながら暮らしていました。今回の「ぎのわんムラ紀行」では、喜友名の自然や祈りの場、遺跡・史跡などのいくつかを紹介します。

糖 ハツドーキ

動力式の製糖工場です。機械の故障が多く、短期間で廃止されました。近くには工場で使うヌーリグムイと呼ばれる溜池もありました。

— 凡例 —

- 道路
- 湧水(カー)
- 溝・水路
- 山林
- 洞穴(ガマ・アブ)
- 製糖工場
- 闘牛場
- 拝所
- 石獅子・石敢當

チュンナーガーを守る

【喜友名のチュンナーガー】

喜友名といえばチュンナーガーをイメージする人も多いのではないのでしょうか。国指定有形文化財でもあるチュンナーガーは、古くから飲料水や生活用水として利用され、長らく喜友名の人々の生活を支えてきただけでなく、1904（明治37）年、七ヶ月も続いたとされる大干ばつの際にも水をたたえ、遠くは字宜野湾からも水を汲みに来たとも伝えられているように、水量の豊富な湧泉として文字通り地域を潤してきました。



【喜友名の基地被害】

古くから喜友名の人々の生活を支えてきたチュンナーガーですが、戦後は米兵の衣類を洗濯するための洗い場としても使用されたこともあったと言われています。この洗濯作業、当時の軍作業としては羽振りのよい仕事だったようで、喜友名では「ブーム」とまで言われています。

このような「ブーム」の一方、喜友名の人々は絶えず基地被害に悩まされてきました。喜友名は農地だけではなく、集落全体が丸ごと軍用地に指定されていました。そのため「住民はしょっちゅう不安を抱き落ちついた生活が出来ない」「萬一立退かねばならないということにでもなれば住民は精神的にも経済的にもひどく困惑する」といった、きわめて不安定な生活を余儀なくされていました（1951年8月20日付「住民居住地域許可申請について」）。

さらには立退き問題だけではなく、墓の撤去、喜友名グスクの撤去を余儀なくされ、パイプラインからは油が流入するといった事態も発生しました。

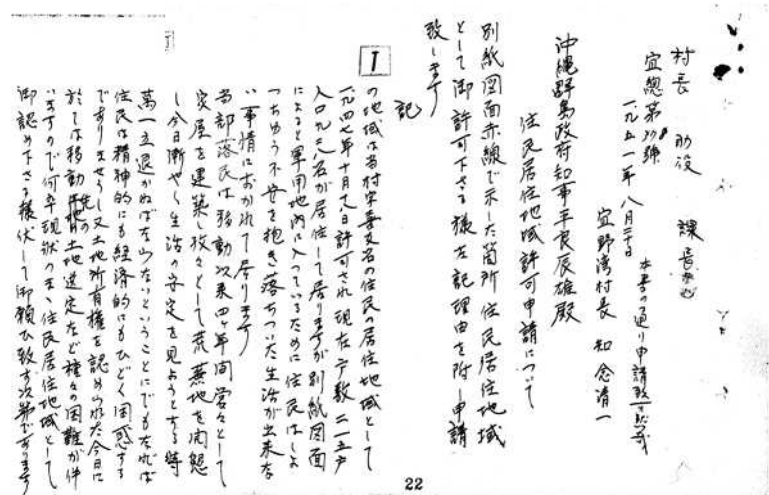
【チュンナーガーを守る】

喜友名の人々の不安定な生活にさらなる追い打ちをかけたのが伊佐浜の強制接収でした。「沖繩一の美田」と称された伊佐浜の肥沃な水田は伊佐浜の人々にとってはもちろんのこと、喜友名の人々にとっても生活の「命脈」でした。しかし1955年7月、米軍の「銃剣とブルドーザー」によって伊佐浜の水田は不条理にも接収され、このとき喜友名のキャンプズケラン側の農地が奪われてしまったのでした。

このような状況にあって、喜友名の人々が最後に守り抜いたものは実にチュンナーガーでした。伊佐浜の強制接収の際、チュンナーガーまで基地のフェンスで囲まれてしまい、これまでのように水を汲むことができなくなってしまいました。喜友名の人々はチュンナーガーを確保すべく粘り強く米軍に折衝しました。その結果、チュンナーガーの周囲に限ってフェンスの開放が実現でき、チュンナーガーは撤去を免れることができたのでした。

このような状況にあって、喜友名の人々が最後に守り抜いたものは実にチュンナーガーでした。伊佐浜の強制接収の際、チュンナーガーまで基地のフェンスで囲まれてしまい、これまでのように水を汲むことができなくなってしまいました。喜友名の人々はチュンナーガーを確保すべく粘り強く米軍に折衝しました。その結果、チュンナーガーの周囲に限ってフェンスの開放が実現でき、チュンナーガーは撤去を免れることができたのでした。

1957年にはチュンナーガーに簡易水道が着工され、工事自体はほとんど区民の手によって行われました。今でもチュンナーガーは喜友名の人々の生活用水として利用されています。



1951年8月20日付「住民居住地域許可申請について」

*別紙図面は欠落

いのん綱引き 2012 復活から継承

2012（平成24）年7月29日、沖縄国際大学で、宜野湾区の綱引きが行われました。前回開催（2007年、がちまやあ13号で特集）から5年ぶりに行われました。また、その前は、1941（昭和16）年に行われたもので、66年ぶりに復活して、今回はそれから2回目となる綱引きで、復活から継承となるものです。



宜野湾の綱引きは、戦前、旧暦6月15日か25日に、宜野湾馬場で行われていました。その特徴は、綱を高く持ち上げ、カナチ棒を貫くスタイルで、綱引き後に勝った側の綱を、みんなで担ぎ上げて馬場を蛇行する「戻り綱」にありました。また、誰でも参加できるスニン（諸人）綱で、雄綱には大山、雌綱には神山の人たちが主に加勢したといえます。

【綱引き準備】

今回の綱引きは、2011年の11月から準備に入り、5月にワラ束作り、6月には綱打ちを行っていました。土、日を利用し、前回の反省も踏まえながらの準備で、おおむね計画通りにいったようです。綱打ちは前村渠がこどものあそび広場で〔雄綱〕を、後村渠がマータクロー広場〔ゲートボール場〕で〔雌綱〕を作っていました。戦前の集落は基地に接收されているので、現在の前村渠と後村渠の区分けは、長田交差点から北への道で分けて、1丁目を後村渠、2,3丁目が前村渠としていました。

【綱引き当日】

綱引き会場は、沖国大野球場で、前日には、綱への拌みやりハーサルなどを行い、18:30から道ジュネーを開始しました。「ハルヤイ、ハーイヤ」の掛け声と共に、前村渠は沖国大本館から体育館、野球場へ、後村渠は第一駐車場から体育館、野球場に入るルートです。

綱が対面した後、ガーエー、シーチェー、メーモーイの後、綱が中央に寄せられました。高校生以上なら誰でも参加でき、かなりの人が参加していました。カナチ棒が貫かれ、綱が下される



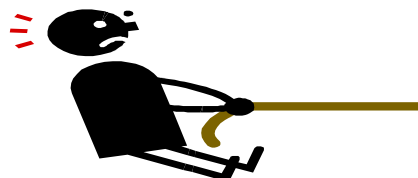
雄綱を雌綱に入れようとする様子、この後、カナチ棒を貫き、綱引きが開始された。



綱引き後、シュニンモーアシビのOB会、婦人会によるサングワチャー踊り

と同時に綱引きが始まりました。4分30秒の熱戦の末、後村渠（雌綱）側が勝ちました。戦前の綱引きを通して後村渠が勝ったのは、これが初めてとアナウンスがありました。

勝った後村渠の綱は、後村渠・前村渠双方の男性が会場内を蛇行して回り、その後カナチ焼き（火災予防の意味があるという）をして、シュニンモーアシビに移りました。サングワチャー踊り、沖国大の芸能研究会等の余興や舞方、カチャーシーで終了しました。綱引きは、5年後も開催する予定ということなので、次回も楽しみです。



宜野湾市史編集係事業報告

企画展 宜野湾の地名－内陸部を中心として－

平成24年9月12日(水)～9月30日(日)の期間に
企画展 宜野湾の地名－内陸部を中心として－を開催しました。
短い期間のうえ、台風での臨時休館に2日もあたってしまい
ちょっと残念でしたが、349名の方に来ていただきました。
企画展を見に来てくださった皆様、ありがとうございました♪



サングワチャー (三月遊び) の調査始まりました♪

市史編集係では、市内民俗芸能調査事業として、宜野湾で古くから行われている旧暦3月3日の行事、サングワチャー(三月遊び)の調査を行っています。

★当面は野嵩・伊佐・嘉数の調査に入ります。

☆調査の際には、ご協力
お願いいたします☆

『ぎのわんの地名－内陸部編－』
定価¥3,000



在庫数
減ってきています。
お買い求めは
お早めに!!

お買い求め先

★文化課 市民会館2階)

098-893-4430

★宜野湾市立博物館

098-870-9317 まで